

6-a 雑誌

この記事の書き手自身、平日頃はフネの試乗記の執筆を主な仕事にしている人間です。そのため、雑誌のポート紹介記事については、あれやこれや言いにくい立場ではあるのですが、できるだけ公平かつ客観的にそれらを眺めて、資料としてどういった特性をもっているのか、考えてみることにしましょう。

*

雑誌の記事には、書き手によって、あるいはその雑誌や記事のポリシーによって、いろいろなスタイルがあります。

そのフネに対する書き手の情緒的な感想がメインになっているようなものもありますし、まったくその逆に、できるだけ書き手の情緒的な感想を排除し、客観的なデータに対する考え方や解釈を述べるにとどめているものもあります。

また、フネの生い立ちや位置づけについても、そのフネそのもののあり方を中心に解説しているものもあれば、そのフネの背景にあるビルダーや設計者について言及しているものもあり、さらにもつぱら技術的な部分を取り上げているような記事も見られます。

そういった記事の、いわば中心となっている試乗の感想についても、これまた千差万別で、書き手自身の経験則を評価の軸とするものがあれば、その一方、同系他艇を比較対象として考えるものもあります。また、特定の評価軸をあえて導入せず、感覚的な表現でそのフ

ネの航走感を綴った記事も見られます。

*

どんな記事であっても、それが人間の書くものである以上、書き手の主観を排除することはできません。たとえスペックなどに関する数値的なものであったとしても、その数値を掲載するか否かは、書き手なり編集者なりの判断によっているわけですから、その時点である程度の主観が介在する余地はありますし、ヤード・ポンド法からスペックを換算する場合などは、その換算値の有効桁数を変化する場合もあります。

ですから、雑誌の記事をもって、そのポートの何たるかを知ろうと思ったなら、まず、その書き手の主観がどうかかたちで働いているのかを読み取ることが必要になるような気がします。これはとても難しい作業でしょう。

*

写真というのは、そのフネを知る上でとても役に立つ資料です。最近ほどの雑誌もかなり多くの詳細写真を掲載して、そのフネをさまざまな角度からご覧いただくようにしていますから、少なくともフネのスタイリングやインテリアがどういったものかをある程度把握するのは、それほど難しいことでないように思えます。

とはいえ、ほとんどの写真には、いわゆる「キャプション」と呼ばれる説明文が付きます。もちろん、書き手としては、

その写真の意味するものがどういうところにあるか、より明確にするためにそれを記すわけですが、キャプションというのは、スペースの関係もあって、それほど長い文章にはできません。そのため、かえってその写真の意味するところを不明確なものにするケースがないともいいきれないような気がします。

ただ、文章の書き手は、そのフネを実際に見て、そ

の文章を書いています。そのため、その記事の写真によって初めてそのフネを見ることになるであろう読者の方々とは、微妙に感覚の違いがあるかもしれません。

*

日本で入手できるポート雑誌は、なにも日本のものばかりとは限りません。大きな書店の洋雑誌コーナーには、海外のポート雑誌の2、3種類くらいは置いてあるはずですよ。

海外の雑誌を本気で読もうとするならば、たしかに外国語についての知識は必要です。英語はまだしも、イタリア語やフランス語となると、さすがにそれで書かれた雑誌を読みこなせるくらいに堪能な方は、それほど多くないでしょう。

ただ、そういった国のフネの情報を得たいと思った場合、英語で用が足りることもないわけではありません。

ひとつには、日本の雑誌が欧米のフネの情報を載せているのと同様、英語圏の雑誌であっても、フランスやイタリアのフネの情報を掲載しているということ。もうひとつは、非英語圏の雑誌でも、本文に英語を併記しているものがあるということです。

もちろん、英語が不得手という方もおいでかと思えます。ただ、そういった方でも、基本的なスペックの意味は理解できると思えますし、写真や図版は世界共通のビジュアルランゲージですから、それを眺めるだけでもけっこう楽しめると思えます。

*

プレジャーボートを対象にした雑誌の書き手の多くは、基本的に、フネが好きなのです。

限られた予算の中から原稿料を捻出してくださる雑誌社の方々には申し訳ありませんが、はっきり言って、それほど儲かる仕事ではありませんから、好きでなければ、とても続けられません。

ほとんどの書き手は、そのスタンスの基本的な部分に、ある種の愛情のようなものをもって、取材対象であるフネに接しています。それだけは、ぜひご理解いただきたいところです。

